

# 『令和6年度 富山県介護支援専門員協会 通常総会・基調講演』のご報告

報告者：在宅介護支援事業所ハッピーとやま上市 石本 哲也



令和6年6月21日 富山県民会館において集合、オンラインでのハイブリッド形式にて一般社団法人富山県介護支援専門員協会 令和6年度通常総会が開催されました。総会員数820名の内、会場参加110名、委任状提出464名により、総会員数の過半数をもって議事が執り行われました。令和5年度事業報告、収支決算報告、役員改正案、令和6年度事業計画案等、各議案賛成多数にて承認をいただき、無事に総会を終えることができました。事業報告会では、ケアマネジメント実態調査アンケート報告、令和6年能登半島地震における災害対策本部からの報告がありました。

その後の基調講演では、一般社団法人福井県介護支援専門員協会 会長 貴志 英生氏による「知っておきたいコミュニケーションスキル」と題して、ご講演をいただきました。介護支援専門員は良好なコミュニケーションを取ることが適切なケアマネジメントに繋がると感じており大切にしている。コミュニケーションとは、何かを「共有」するためのプロセスであり、技術である。また、正しく訓練することで習得が可能である。その目的は、何かを共有することで周りの人との良好な人間関係を築き、その関係を継続することになる。

## 知っておきたい コミュニケーションスキル

2024.06.21

福井県介護支援専門員協会 会長  
貴志 英生



講師 貴志 英生氏

コミュニケーションには、「聴く」「読む」「見る」「書く」「話す」等があるが、相手の話をしっかり聴き、相手の気持ちを受け止め尊重する傾聴力、聴く態度が大切であることを学ぶ。またコミュニケーションに必要な力として、「傾聴力」「観察力」「想像力」「言語力」「伝達力」がある。信頼につなげるために「傾聴」と「共感」が相手の心に変化をもたらすコミュニケーションの第一歩である。受け手に与える印象として話し方が38%、話の内容が7%、ボディランゲージが55%であり、見た目が大事である。またコミュニケーションはキャッチボールと同じく「意図」「受入」「確認」「内容」「伝え方」「待つ」といったプロセスを通じ、内容により伝え方を変え、反応を待つことも必要。コミュニケーションは繰り返すことで上達し、コミュニケーションを通して、学ぶと話されました。その他、自己覚知、バイアスについて等、多くのことを学びました。コミュニケーションは利用者様、関係機関等の信頼関係を築く重要なものになる。学んだことを今後の支援に活かしていきたいと思っております。

※ この度の通常総会・基調講演は集合とオンラインによるハイブリッドにて開催されました。